



道路盛土実証事業
※除去土壌の再生利用について、さらなる用途拡大を図るため
道路盛土への利用について実証実験を行っており、
中間貯蔵施設見学会の大熊コースにもなっている

●レビュー●

中間貯蔵施設見学会について

中間貯蔵施設は福島県内の除染で発生した土壌や廃棄物を最終処分するまでの間、安全かつ集中的に貯蔵するための施設です。中間貯蔵施設見学会では、中間貯蔵工事情報センターからバスに乗り込み各施設を係員が説明をしながら巡ります。

除去土壌等の県外最終処分に向けて、国民の皆さまに中間貯蔵事業の理解を深めていただくことが重要です。そのための取り組みの一つとして、2019年より中間貯蔵施設見学会を行っています。見学会は、個人向け団体向けそれぞれ開催されており、中間貯蔵工事情報センターHPにて、受付の案内を行っています。個人向けには毎月3回「中間貯蔵施設見学会」を開催、5名以上の団体向けには個別の日程のご要望に応じて見学会を行なっています。見学コースは「大熊コース」と「双葉コース」があり、国が整備・運営している様々な施設の役割や規模などについて、現場に立入して肌で感じていただけるものになっています。

見学内容は、事業の進捗や参加された皆様からの意見を反映して更新を図っています。例えば「土壌貯蔵施設での放射線測定体験」、「除去土壌の再生利用のための道路盛土実証施設」をコースに加えており、参加の皆様から理解が深まった等の感想をいただいています。

見学会では、二つの重要なメッセージを伝えるよう心掛けています。一つ目は、大量の除去土壌を貯蔵し安全に管理していること。二つ目は、中間貯蔵施設整備のために土地を提供いただいた地元住民の方々の思いです。中間貯蔵施設に設

定された地域で生活されていた住民の皆様が、先祖伝来の大切な土地を契約いただいたことで、中間貯蔵施設が整備され、除去土壌等の輸送が進み、福島県内各地にあった仮置場が解消されていき、結果として福島県の復興を進めることができたことと考えております。

中間貯蔵施設を見学されることがない方はもちろん、見学されたことがある方も、中間貯蔵事業の取組の進捗を御覧いただけますので是非、見学会にご参加ください。見学により、除去土壌等の県外最終処分について、日本全体の課題として知り、考え、発信していただくことが福島環境再生につながります。



土壌貯蔵施設放射線測定体験

● 双葉町駅西住宅 5月全面竣工

JR常磐線双葉駅西口の駅西住宅は、双葉町が新しく整備した町営住宅で、新たに双葉町に転入される方や双葉町民の方を対象とする「再生賃貸住宅」56戸と、震災当時双葉町にお住まいであった方を対象とする「災害公営住宅」30戸の全86戸からなります。「標葉（しねは）の谷戸（やと）」に抱かれた仲間と共に育むなりわい集落」をコンセプトに整備が進められ、令和4年10月から順次供用が開始されましたが、本年5月末日に全面竣工しました。

整備された住居は、茶と黒をベースにした落ち着いた色合い、土間玄関や縁側を備え、プライベートな空間を確保するとともにお隣さん同士がつながれる工夫がなされています。また、広場や集会所のほか、8か所の軒下パティオと呼ばれる大屋根の屋外空間もあり、住民や来訪者の方の交流を育む空間も確保されています。

昨年7月には、駅西住宅に入居された方が中心となって、「双葉町結ぶ会」が結成され、敷地内で手づくりの夏祭りも開かれています。さらに、駅西住宅に隣接して診療所が昨年2月に開所し、安心感が増しました。



駅西住宅

駅西住宅から双葉駅を跨ぐ東西自由通路を通り駅東地区に出ると、町役場やダルマ市・盆踊りなど様々なイベントが行われる広場があり、もう少し東側には3月に再開した郵便局があります。来年度中には役場隣にイオン双葉店の出店が計画されており、郵便局向かいにも飲食店がオープンする見込みで、駅西住宅の暮らしやすさも大きく向上します。

● 9月5日知のネットワーク会合を開催します！

「第13回環境放射能除染研究発表会—除染・減容化・中間貯蔵など福島環境再生・復興に向けて—」の企画セッションにおいて、「第9回知のネットワーク会合」をオンライン・オフラインのハイブリッド形式で下記のとおり開催します。

今回は技術実証事業成果発表に加えて、「(仮)若者に伝えたい中間貯蔵事業のこれからについて」のテーマで発表も行う予定です。オンラインの聴講はどなたでも無料です。ぜひご覧ください。

日時 2024年9月5日(木)午後
会場 いわき市立中央公民館(いわき市文化センター)
内容 ・(仮)若者に伝えたい中間貯蔵事業のこれから
・技術実証事業成果発表会(第6回)

★オンライン(Zoom)聴講申込み

メールの件名を『9月5日会合申込』とし、氏名、勤務先名称・所属部署(法人の方)、メールアドレスをご記入のうえ、下記にお送りください。前日までに視聴用URLをお送りします。

i-network@jesconet.co.jp

情報センターだより

▼見学者アンケート

- 安全性を説明するしかないと思います。除去土壌=危険だと漠然とした印象で反対している方が多いと思うので、科学的に理解してもらえないと思います。/福島市在住 40代
- 科学的な証拠をもとに安全性を説得することも重要ですが、心情としての忌避感があることも事実だと思います。大量の除去土壌の再生利用を福島だけでなく全国の人々が当事者として関わる必要があると思います。/兵庫県 20代
- 土壌貯蔵施設での放射線の測定体験で、地面に近づけても数値が変わらなくて、ちゃんと処理をして土を被せれば再利用が可能だというのが印象に残りました。/東京都 20代

▼情報センター見学のご案内

中間貯蔵工事情報センターは無料で見学できます。(中間貯蔵施設の見学は事前の申込みが必要です。)詳しくはホームページをご覧ください。



編集後記

- 5月1日より中島前次長の後任で参りました藤井と申します。2020年8月～22年7月まで環境省の浜通り事務所で勤務していました。ふたたび福島環境再生に取り組むことができうれしく感じています。よろしくお願ひ申し上げます。(藤井)
- 今号を持ちまして、担当から離れることになりました。正確性、読者に対するわかりやすさに加えて共感いただけるような要素を入れること、とても難しかったですがやりがいがある仕事でした。ありがとうございました。(沼田)
- 本号からニューズレターの作成を担当いたします。中間貯蔵事業の現状をはじめとした、皆様にとって有益な情報を発信していきたいと思っています。(佐野)